

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	3292200049		
法人名	社会福祉法人 高田会		
事業所名	隠岐の島町認知症高齢者グループホームみのりの家		
所在地	島根県隠岐郡隠岐の島町都万2472-3		
自己評価作成日	令和3年9月5日	評価結果市町村受理日	令和3年11月15日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 [2/index.php?action\\_kouhyou\\_detail\\_022\\_kani=true&JigyosyoCd=32](http://2/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=32)

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	NPOLまね介護ネット		
所在地	島根県松江市白濁本町43番地		
訪問調査日	令和3年10月12日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

その人の有する能力に応じて、自立した日常生活が送れる様に支援する。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

利用者は職員、地域の人や行政とも顔見知りが多く、連絡、連携がしっかり取れていて安心して暮らしている。課題となる職員不足やコロナ禍の中で、外部との交流制限や家族とも面会中止など感染対策に追われる日々だが、窓越し面会やTV電話、制限緩和時には安全対策を取り地域の人の来訪や家族面会を実現させた。利用者のケアについて少しでも今ある状態を維持してもらえるよう意志決定を尊重し選んでもらう場面をつくり見守りや必要な支援に努めている。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

## 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員会や気付きのノートを元に話し合い、その人らしく出来る事をして貰うよう援助するように心がけている。	玄関に掲示し毎月の職員会や気付きノートなどで確認し、「ゆったりつれだって」本人のペースで過ごしてもらえよう支援している。	定期的に理念について全職員で話し合う時間を持たれることを望みたい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍でできてない。	コロナ禍の中で一時は面会完全禁止で外部との接触が絶たれたこともあった。面会が緩和された時には地域の人の協力もあり安全に配慮し一緒に歌や踊りを楽しむことができた。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナ禍でできてない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回の運営推進会を行い、意見交換しサービスの向上につなげている。	感染状況の詳しい説明や対応を協議してきた。又、町内の諸活動や行事の情報ももらい利用者への話題提供に繋げている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会に参加している方よりコロナの感染情報や防災の情報を得る事があった。	本部を通して連絡を取りながら情報を共有できている。コロナ感染対策や防災についての情報を得ている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	月1回の身体拘束の会議に出席し、身体拘束になっていないか再度業務の確認を行っている。	管理者は月1回の法人開催の身体拘束の会議に参加し資料を参考に周知させている。毎日の業務確認の徹底で振り返り身体拘束のない介護に努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者の虐待防止の研修会に参加し、日々の業務実践をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	コロナ禍で研修会などに参加できていない。又、現在制度の利用は無い。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所契約時に、利用者家族に説明し理解していただき、署名捺印をしてもらう。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入所契約時、重要事項説明書に苦情の受付ある事説明している。家族の面会時や、電話があった時は日ごろの様子を伝え、意見要望等はないかを尋ね、相談しながら支援をする。	家族に面会時や電話にて利用者の今の状況を伝え、意見や要望を聞いて検討し支援に繋がるよう取り組んでいる。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会やミーティングで提案し検討し実践している。	日頃から何でも言える関係ができています。対応できることはすぐに実施し、検討が必要であれば職員会で継続して話し合っている。利用者同士の関係改善に係る話し合いなどをした。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員と面談し、勤務の状況や職場の様子を一人一人から聞いて、事業所が継続出来るように努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	コロナ禍で施設外の研修等は参加できていない。施設内の研修には可能な限り参加してもらっている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ禍で出来ていなかったが、最近グループホームの交流会ができ意見交換することができた。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所申し込み後、自宅や病院に訪問し、本人や家族と面談し困っている事や要望など聞き入れ、信頼関係がスムーズに行ける様に努める。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所申し込み後、自宅や病院に訪問し、本人や家族と面談し困っている事や要望など聞き入れ、信頼関係がスムーズに行ける様に努める。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族から聞き取り、ケアプラン作成し、支援行いモニタリング行い検討している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	出来る利用者には昼食の大根おろしやネギ切り、盛り付けなどしてもらい。自室のモップかけをしてもらい、職員も一緒に掃除する。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時には、日頃の様子を伝えている。また、遠方の家族さんとは電話での会話をしたり、必要に応じて一緒に外出の機会を作ってもらい。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍で出来ていない。	定期的に家族や同地区の知人の来訪者もある。遠方の家族とは電話や可能な場合はテレビ電話での面会も実施し喜ばれた。誕生日にはプレゼントを送ってくる家族もある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員が声掛けし、利用者同士で洗濯物干しや洗濯物たたみをしてもらいながら会話している。同級生同士の利用者さんがおられるので昔話をする機会を設ける。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	特養に入所された利用者の訪問をして様子を見たり聞いたりしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	毎日1人で散歩を日課にしていた利用者さんが転倒後、散歩に出る機会が無くなり、家族さんの面会時には一緒に散歩や買い物に出かけるようにしてもらっている。	やりたいことや好む物など、時間が掛かってもできるだけ利用者の意思を表してもらうことを大切にして支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	居宅から情報提供してもらったり、家族や本人から聞き取った事をサービス提供している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一日の様子を記録し、職員間で話をし利用者の状態把握するようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族、職員と話し合いケアプラン作成し、職員会やミーティングで評価・検討し見直ししている。	利用者の状況を見ながら家族の意見を盛り込み、検討しながら得意なことや好きなことをケアプランの中に取り入れ、少しでも生きがいに繋がる支援になるよう取り組んでいる。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子を、業務日誌や個人記録に記録し申し送りし、職員間で情報共有し実践・見直しをしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	島内にいる家族には訪問依頼し、状況説明している。島外にいる家族には電話で状況説明している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアの方が来られ、一緒に民謡を唄ったり、歌に合わせて手踊りしたりいる。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	都万診療所へ月1回の受診対応。隠岐病院受診の方も家族さんの協力得て受診している。救急時には救急車要請し隠岐病院の受診している。	診療所での月1回の定期受診と状況に応じて往診対応をしてもらえる。専門科受診は家族の協力を得ているが依頼があれば対応している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	現在、看護師はいません。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	受診時、本人の状態やバイタル、状態の変化など詳しく説明し情報提供している。退院近くなるとカンファレンス参加し本人の情報を得る。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	病院と家族との話を重ね、必要に応じて特養などの施設の申し込みを行っている。現在看護師がいない為、看取り対応できず。	身体状況に合わせて家族、医師、事業所が話し合いを重ね、特養と連携して取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	施設内研修で年1回の救急救命の講習あり、可能な限り参加している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災避難訓練を年2回行っている。	町や法人から情報収集をしながら、防災ハザードマップや避難場所を確認し、状況をみながら対応している。必要に応じて関係各所に協力依頼ができるようにしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者に合わせて、筆談や耳元での会話など対応している。	居室やトイレの出入りの対応や声掛け、誘導など周りの人に配慮しながら支援することに努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	コロナ禍で出来ていない。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	裁縫をしたい時には職員に声掛けしてもらい、本人の裁縫箱を出して、終わったら声掛けてもらうようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	カット希望の利用者には美容院の予約と送迎。また美容院の出張サービスもありきてもらっている。化粧水をつけたり、外出時にはファンデーションと口紅をしている。必要な物がある時は家族に依頼して買ってきて貰う。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の盛り付け、配膳・下膳を職員と一緒にしている。	季節を感じてもらえるよう諸行事に合わせ食を楽しんでいる。桜餅や彼岸のぼたもち、おはぎ作り、そばやおせちなど取り入れ楽しく食べる事を大切に支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人一人の食事量のチェックと、水分摂取量が少ない人には水分チェックを行い、お茶が飲めない人にはお茶ゼリーでの対応をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、出来る人は歯磨きの促し、出来ない人には義歯の洗浄。夜間は洗浄後ポリデントで消毒している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排尿や排便状態を記録し、観察している。介助の必要のある利用者のトイレ誘導や夜間のPTイレ使用し援助している。	自立の継続を目指し、日中はトイレでの排泄を支援しズボンの上げ下げなど自分で行うことはしてもらいながらすぐ介助の手が差し伸べられる距離で見守り支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取の促し、お茶の飲めない利用者さんにはお茶ゼリーでの対応。またヨーグルトなど乳製品の摂取。排便困難の人には医師と相談し下剤の処方をしてもらい対応している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週2回の入浴の実施。排便等、汚染時には適宜シャワー浴等の対応し清潔保持している。また、体調不良や、入浴拒否があった場合は声掛けする職員が交代したり、日にちを変えて入浴してもらえよう支援している。	利用者の希望や状況に合わせて対応している。安全を確認しながら会話を交わしゆっくりと入浴できる支援に努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	空調により、温度湿度等の調節を行っている。また衣類や寝具等の調節もしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人記録に服用している薬の処方内容をはさんでおり、目を通して確認している。処方変更時には日誌や個人記録・ミーティング帳に記載して確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物たたみなど意欲的にされる方には声掛けしている。コーヒーや牛乳、ヤクルトなど希望の物を出している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	コロナ禍で、遠出はできないが、天気の良いときは施設周りの散歩や花見を希望を聞きながら行っている。家族さん面会時は一緒に散歩したり、お盆の墓参りなどしてもらっている。	コロナの為遠出の外出や地域行事やイベントなどの外出ができなくなったが、少しでも利用者の思いに添えるよう施設周辺への散歩、花見や花摘みに出かけている。家族の協力で面会時に買い物や墓参りに出かける利用者もいる。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	施設でお金を管理している人が多いが、個人で持っている人もいる。電話を掛けたいときには自分のお金を出している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望の時には電話をかけることもある。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室にはお気に入りの花や家族写真が飾られたり、家族さんが持ってきた色紙やぬいぐるみなどが飾ってある。トイレなどは消臭剤を使用し匂いに気を付けている。	利用者、家族の作品やぬいぐるみや花などを飾っている。日中はそれぞれが自分の居場所があり、TVを見たり書き物や古布切りなど好きな事や趣味の時間を過ごしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	各個人の椅子に座って書き物をしたり、ソファでテレビを見たりして過ごしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使っていた布団やタンス等を居室に入れて自分の使いやすいように設置している。また仏壇を持ってこられている。	家族の面会時には仏壇の花や本人の好みのお菓子の差し入れがあり、一緒にゆっくり過ごしてもらえよう配慮している。利用者が使い易い家具等の配置の工夫をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	玄関・トイレ・浴室はバリアフリーになっており、動きやすくなっている。		